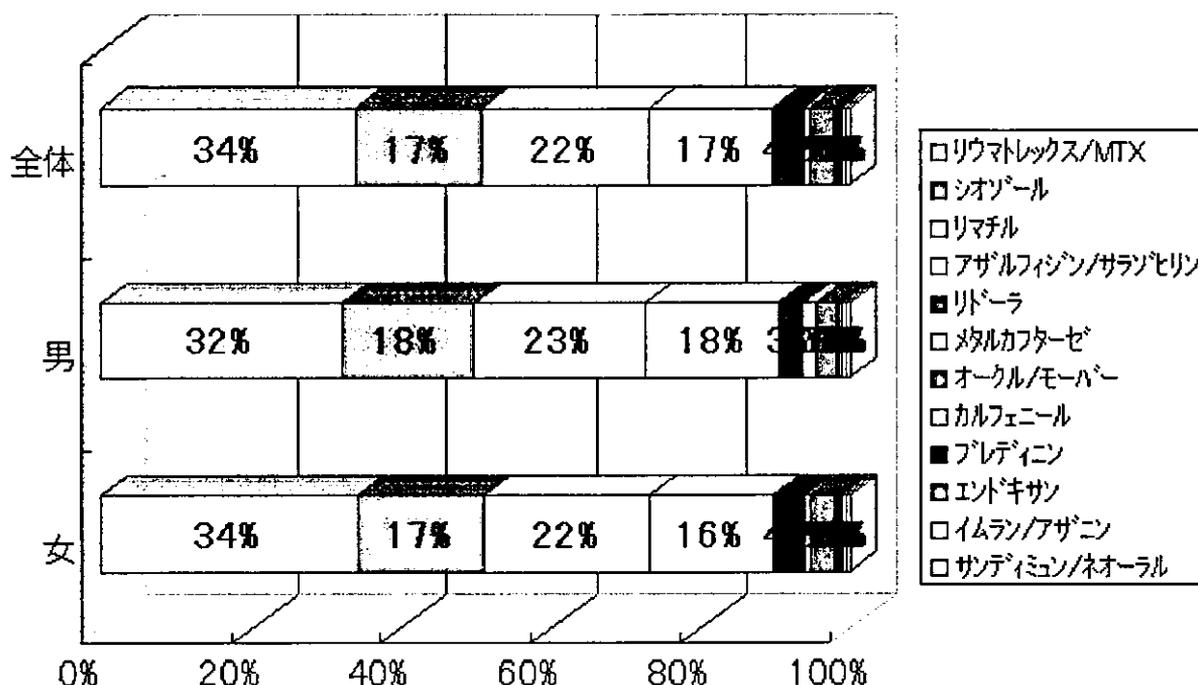


20-1. 抗リウマチ薬使用頻度(全体・性別)



グラフは、RA に対する各抗リウマチ薬の使用頻度を示したものです(併用は延べ数として換算)。抗リウマチ薬の使用頻度を見ますと、約 1/3 を占めるメトトレキサート(リウマトレックス/MTX)と、ブシラミン(リマチル)、サラゾスルファピリジン(アザルフィジン)、注射金製剤(シオゾール)の 4 種類で 90%を占めています。2002 年度の調査段階では、承認前のためレフルノミド(アラバ)やインフリキシマブ(レミケード)は使用されておりました。

	リウマトレックス/MTX	シオゾール	リマチル	アザルフィジン/サラゾピリン	リドーラ	メタルカフターゼ	オークル/モーパール	カルフェニール	ブレディニン	エンドキサン	イムラン/アザニン	サンディミュン/ネオール
全体	34%	17%	22.2%	16.6%	4.2%	0.8%	3.1%	0%	0.9%	0.2%	0.6%	0.5%
男	32.2%	17.8%	22.7%	17.6%	3.4%	1.7%	2.9%	0%	0.2%	0.5%	0.5%	0.5%
女	34.3%	16.9%	22.1%	16.4%	4.3%	0.7%	3.1%	0%	1%	0.1%	0.6%	0.5%

おわりに

本白書は、全国版リウマチ白書として、今後の疫学的臨床研究に極めて有用なものになると考えられます。関節リウマチにおいても、諸外国との比較や治療法の検証が求められています。新規治療法が続々と導入されつつありますが、その有効性や有害事象について適切な情報収集と公開が必要であります。本研究班で構築されたネットワークが効率よく機能し、今後とも疫学研究が展開されていくものと期待しています。

